

千葉県のがん対策に関するアンケート結果 (県内のがん患者団体会員向け)

千葉県健康福祉部健康づくり支援課

令和4年1月

1 調査概要

(1) 目的

第3期千葉県がん対策推進計画（平成30年度～令和5年度）の中間評価に当たり、がん患者の現状への認識及び将来への要望を把握する。

(2) 調査対象

千葉県内の以下のがん患者団体の協力を得て、調査を依頼した。

NPO法人 支えあう会「α」
行動するガン患者会「アクティブ」
NPO法人 ねむの樹
京葉喉友会
千葉県オストミー協会
アイビー千葉
ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ

2 調査方法

無記名式のアンケート調査

各患者会にアンケート調査票と返信用封筒を郵送（又は手交）し、会員へ配布した。

回答は、ちば電子申請システムによるオンライン回答又は返信用封筒により、千葉県健康福祉部健康づくり支援課が収集した。

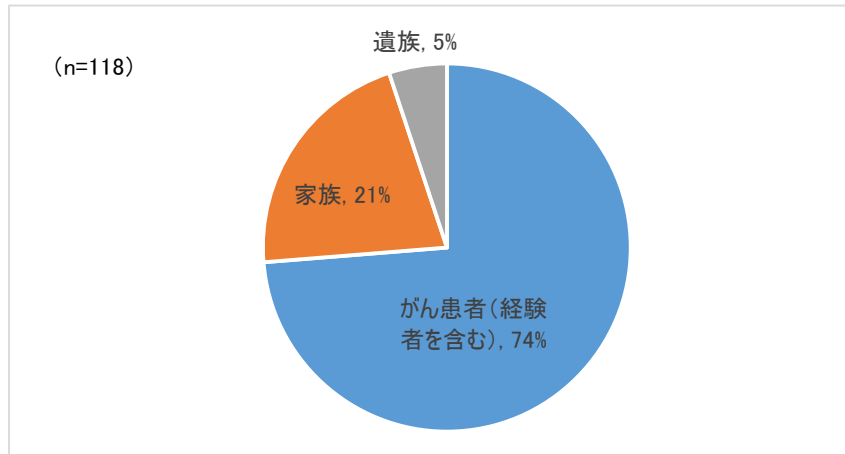
3 調査回収結果

配布数 370

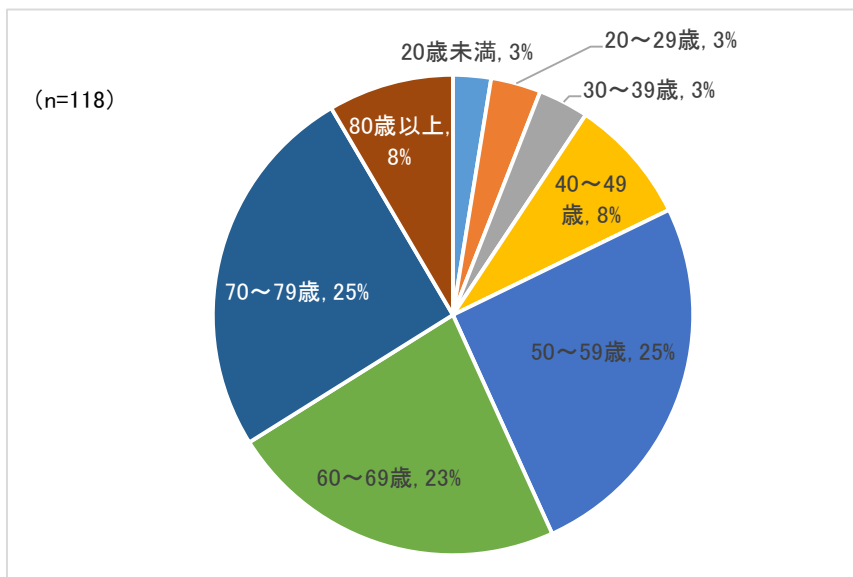
有効回答数 118 (31.9%)

うち、オンライン回答数：19、郵送回答数：99

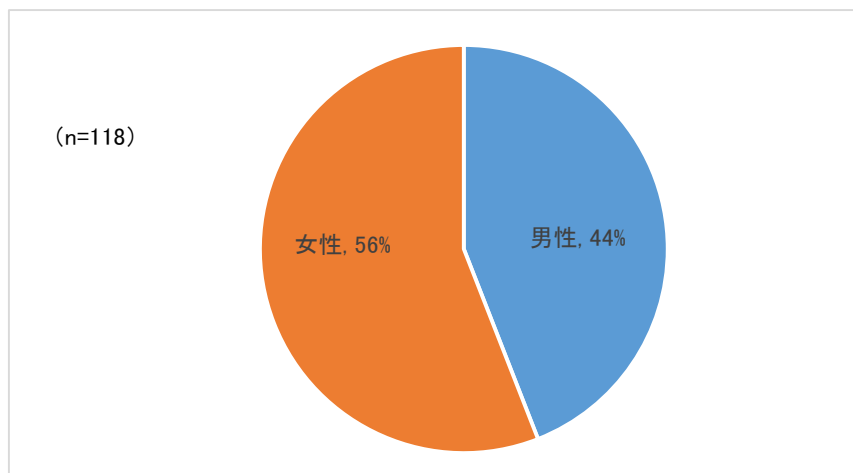
問1 このアンケートの記入者はどなたですか。



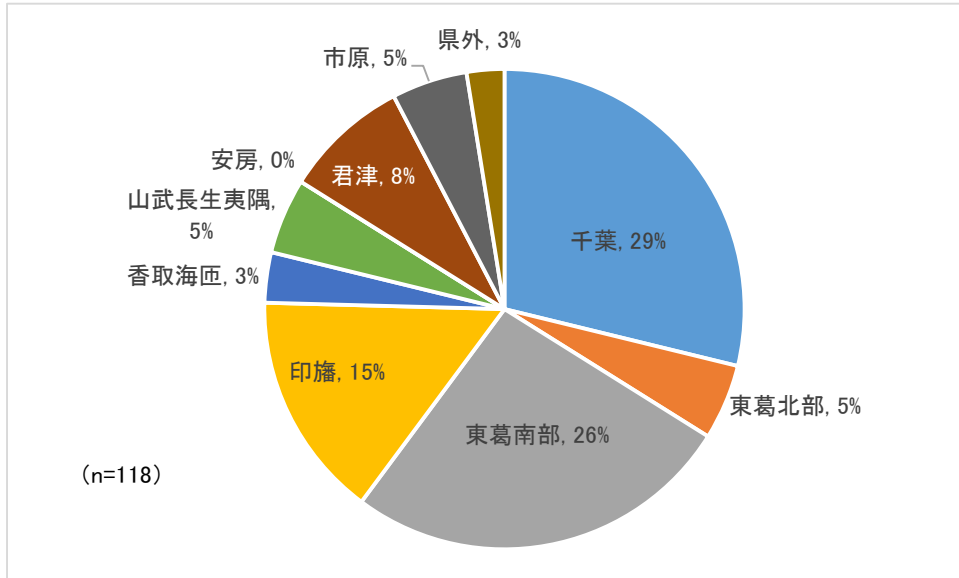
問2 あなた(記入者)の現在の年齢を教えてください。



問3 あなた(記入者)の性別について。

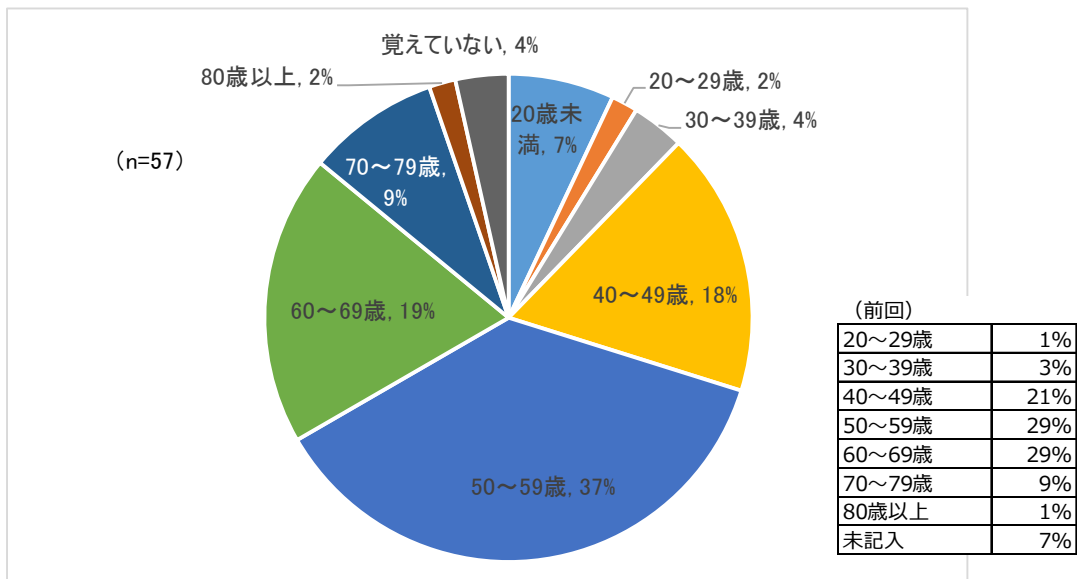


問4 あなた（記入者）の居住地について。

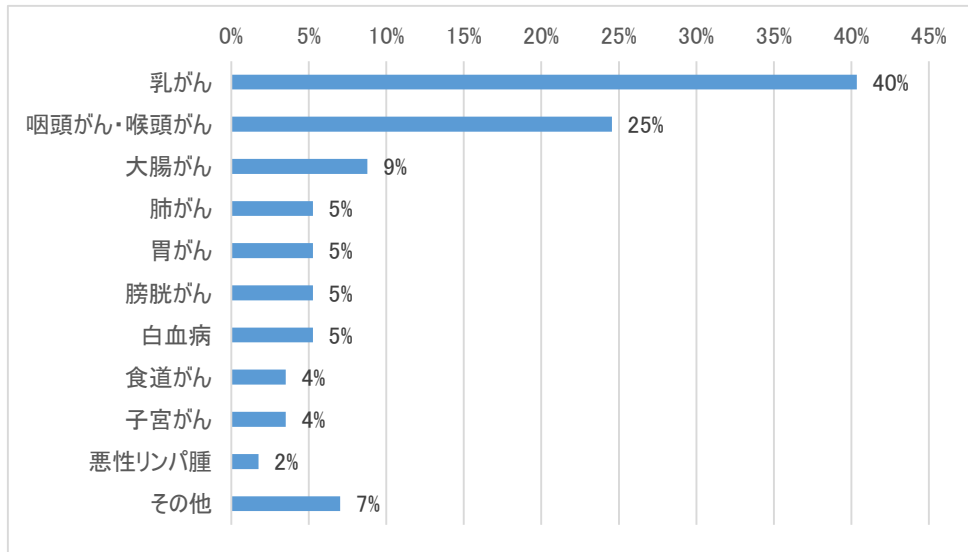


◆ 問5から問16までは、現在治療中の患者さんへの質問です。

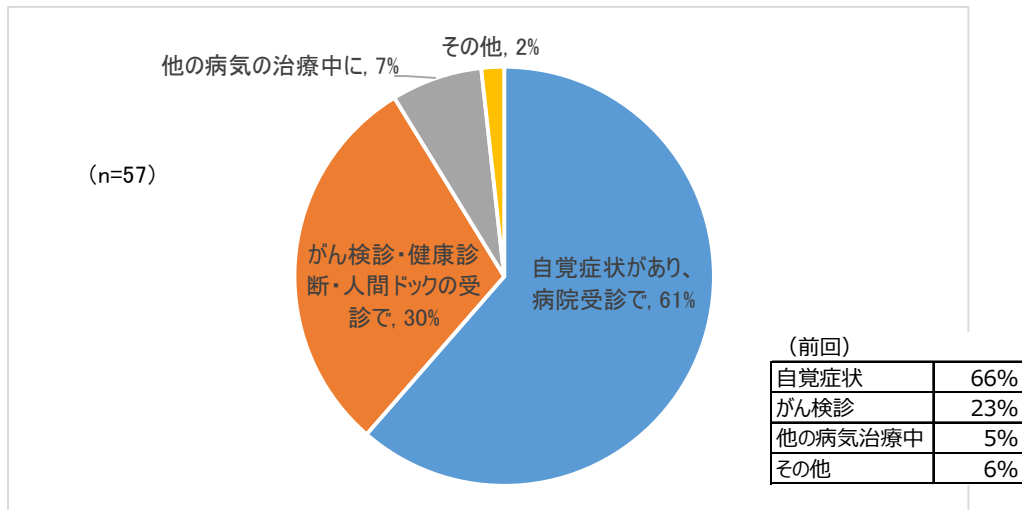
問5 最初にがんと診断された年齢をご記入ください。



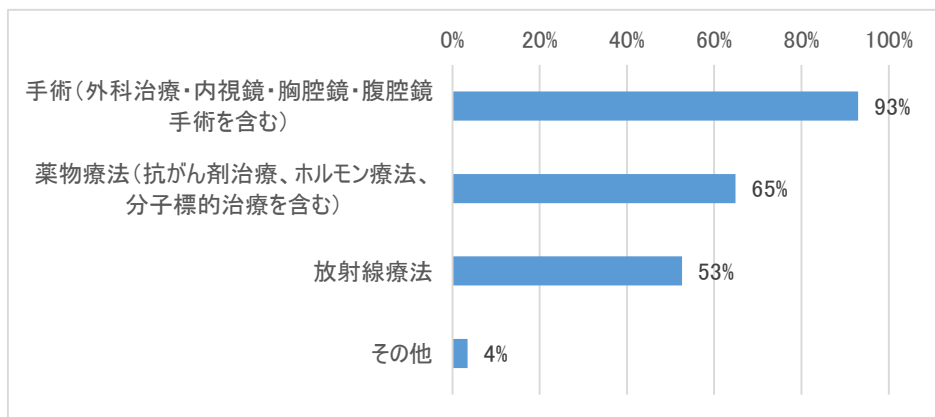
問6 最初に診断されたがんの種類について、教えてください（再発、転移を除く）。



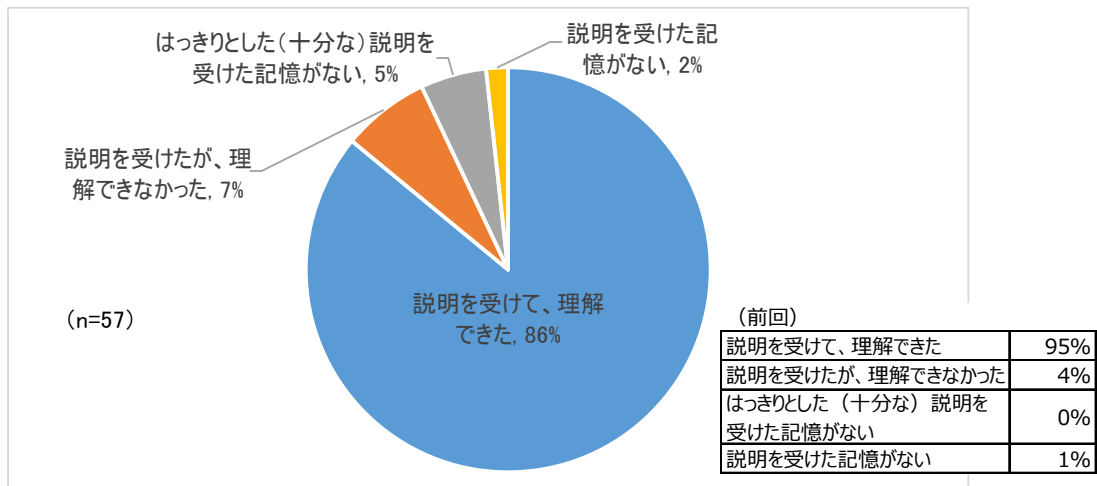
問7 最初に診断されたがんは、どのような状況で発見されましたか。



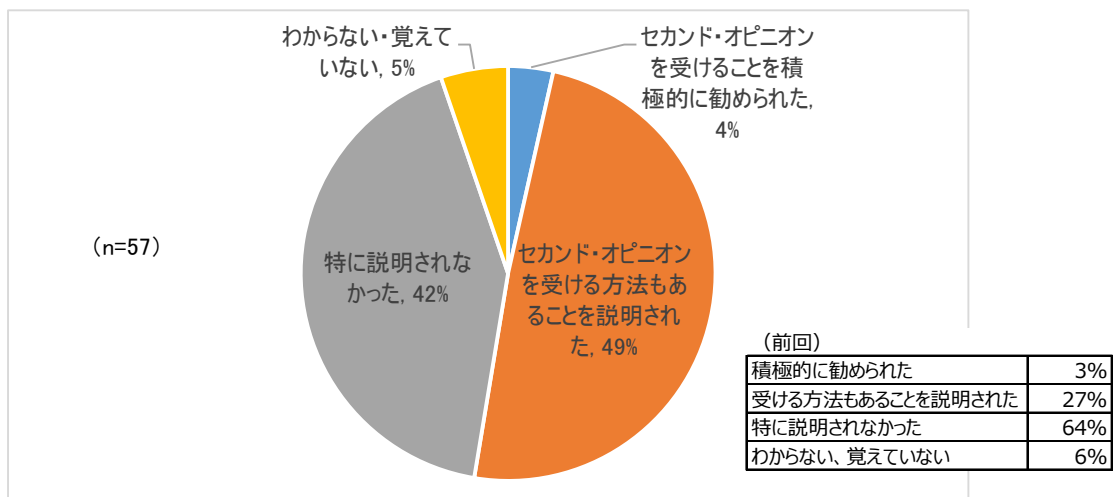
問8 これまでに受けた治療について、教えてください。（いくつでも）



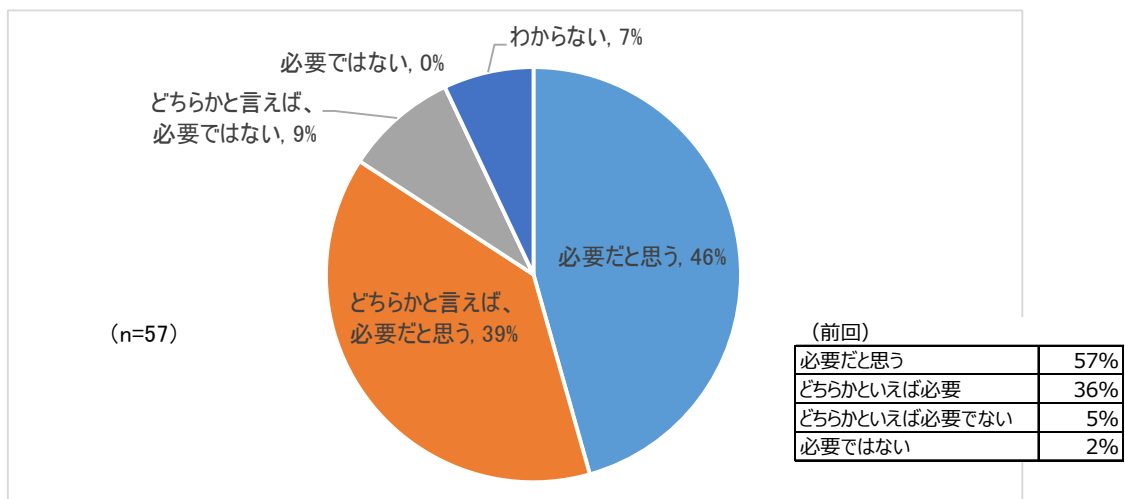
問9 がん治療を受けるにあたって、医療関係者から病気や治療について説明を受けましたか。



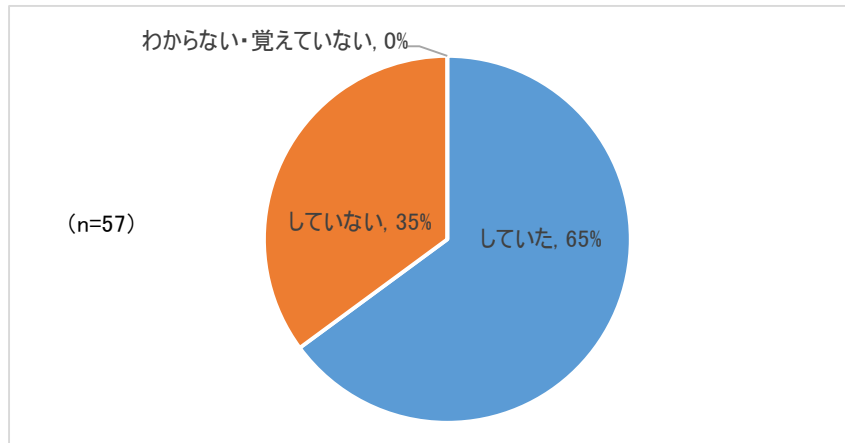
問10 あなたは、がん治療にあたって「セカンド・オピニオン」について、どのように説明されましたか。



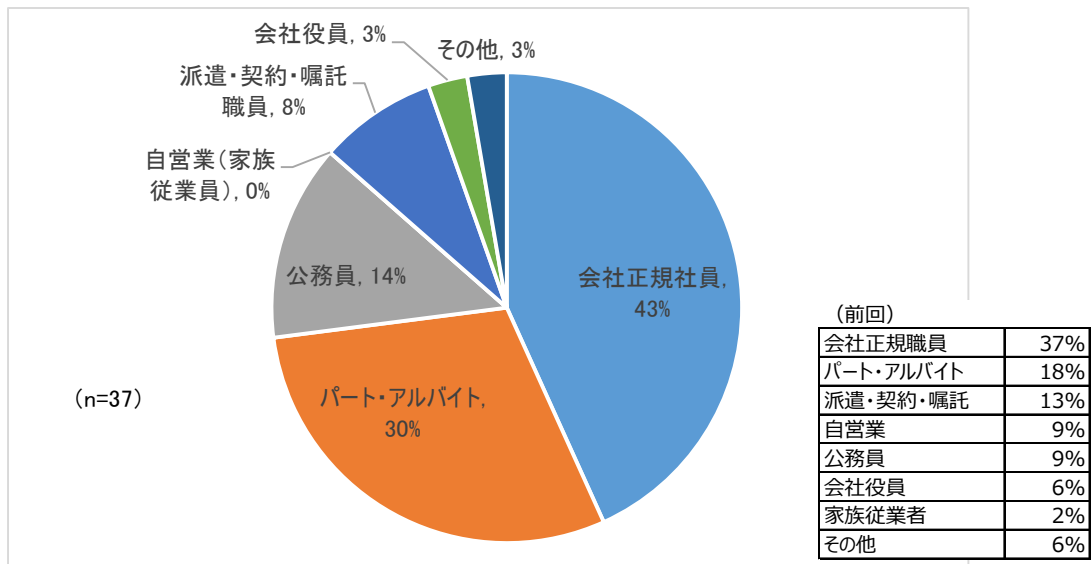
問11 あなたは、がん治療にあたって「セカンド・オピニオン」が必要だと思いますか。



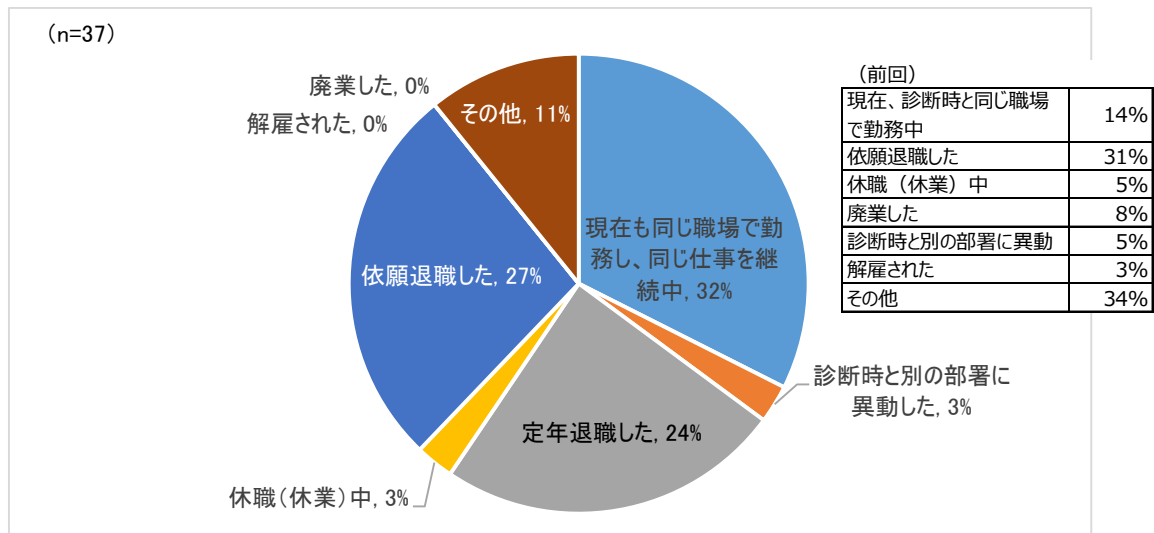
問12 最初にがんと診断された時に、収入のある仕事をしていましたか。



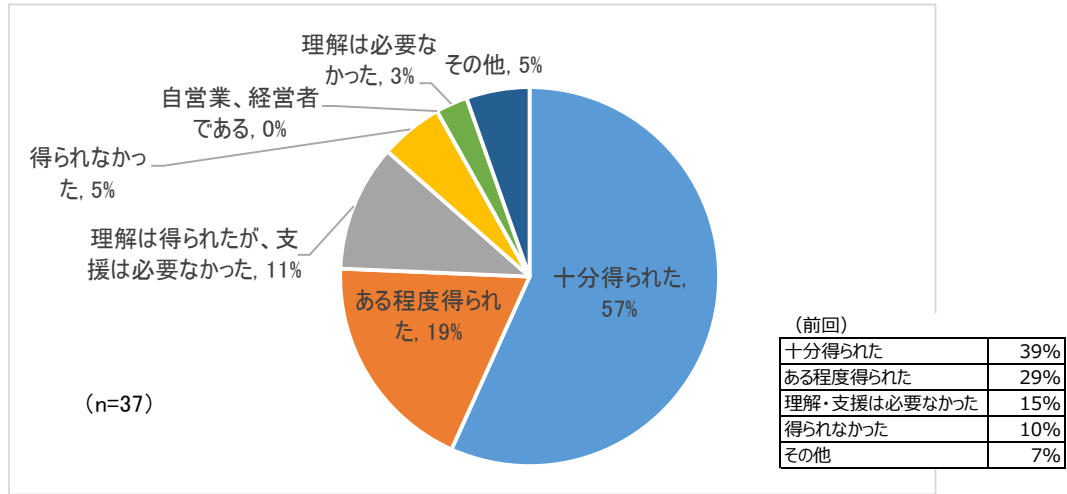
問13 あなたの診断時の職業は何でしたか。(問12で「していた」と答えた方)



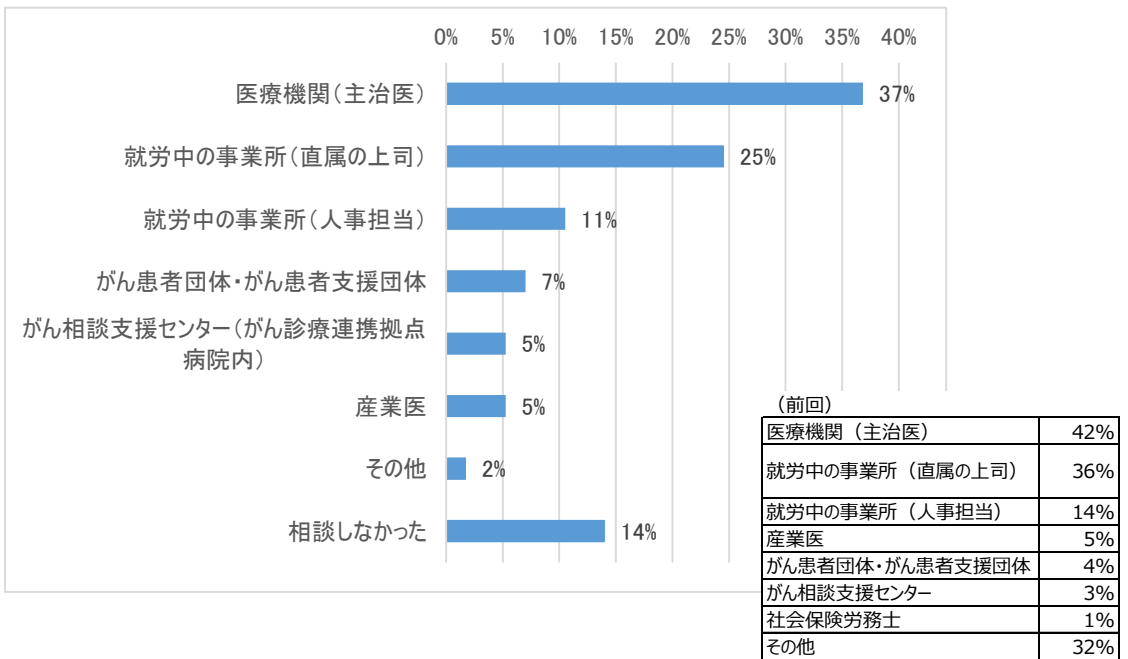
問14 現在、診断時の職場との関係はどのようになっていますか。(問12で「はい」と答えた方)



問 15 診断時の仕事を継続することに対する事業主の理解・支援は得られましたか。

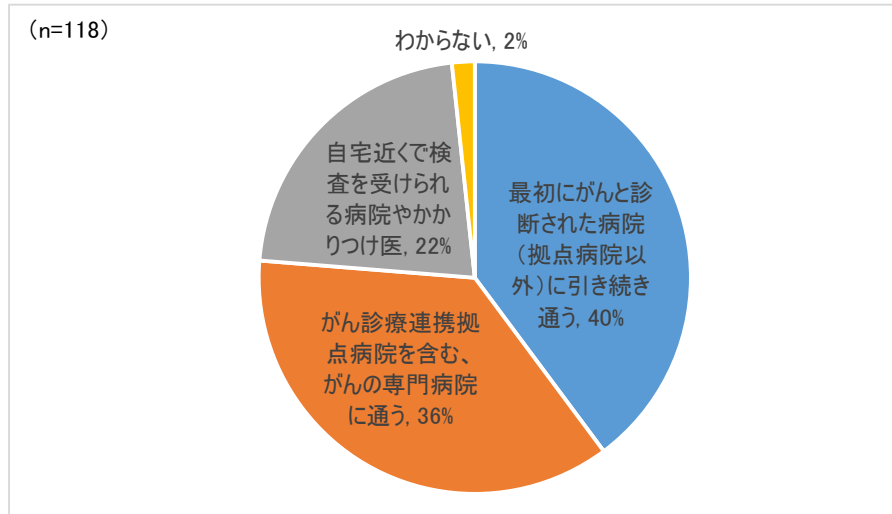


問 16 治療と仕事の両立など、就労に関してどこに相談しましたか。

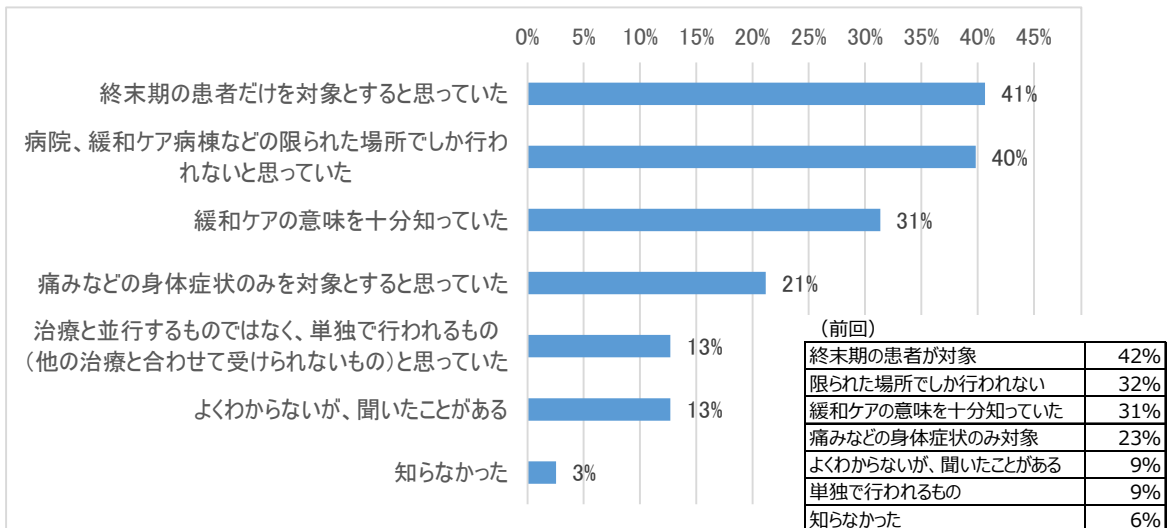


◆ 以下は、すべての方への質問です。

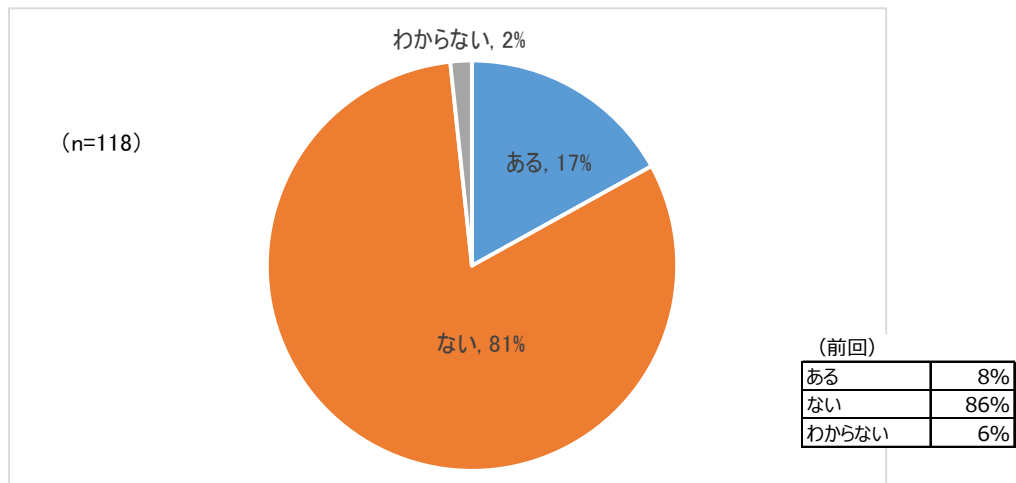
問 17 治療が一段落して定期的な検査のための通院となった時、どこにかかりたいですか。



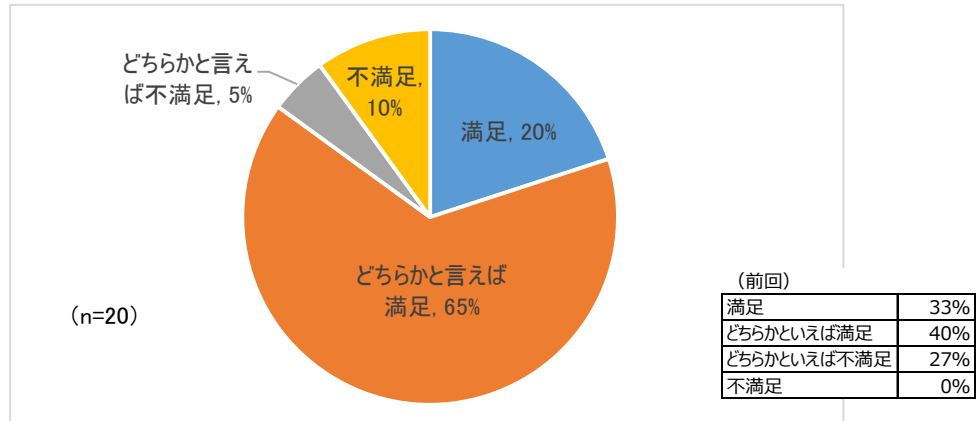
問 18 緩和ケアについて、あなたにとって当てはまるものはどれですか。



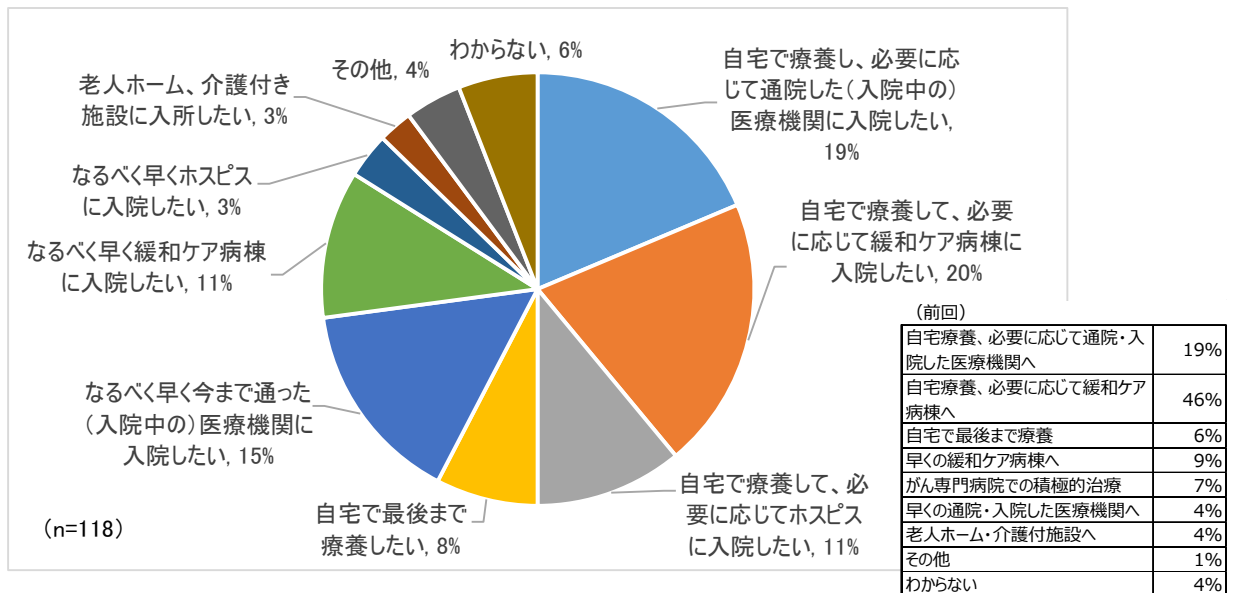
問 19-1 あなた（患者さん）は、がんの緩和ケアを受けたことがありますか。



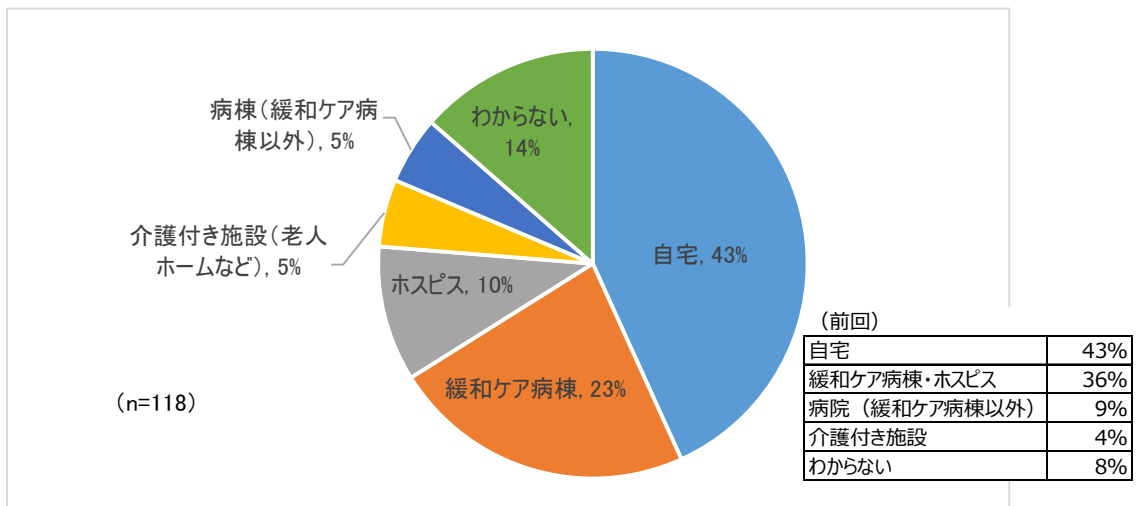
問 19-2 提供された緩和ケアは満足いくものですか。(問 19-1 で「ある」と答えた方)



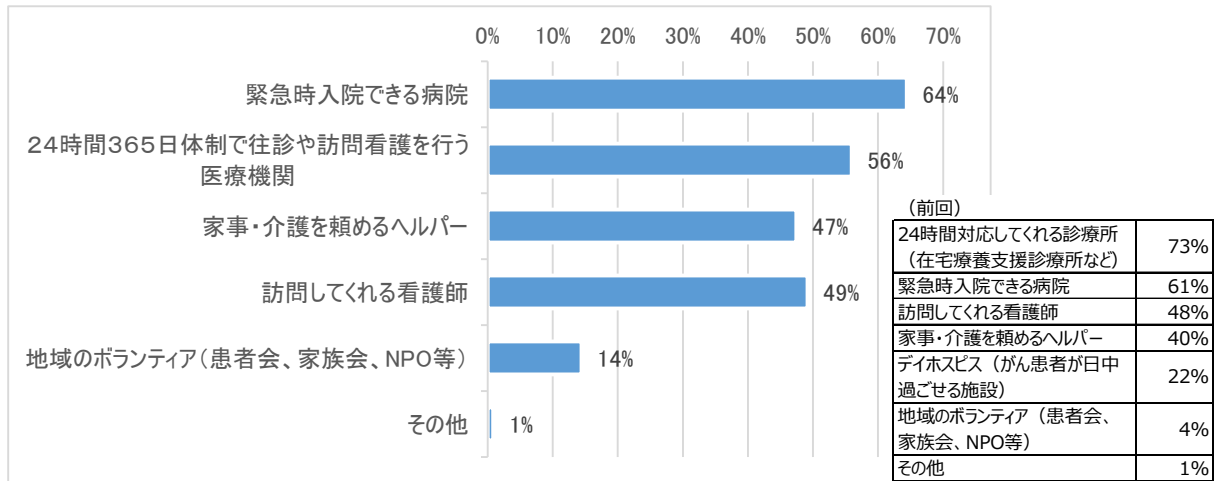
問 20 がんに対する積極的な治療を行わず症状緩和に専念する場合、どこで過ごしたいと思いますか。



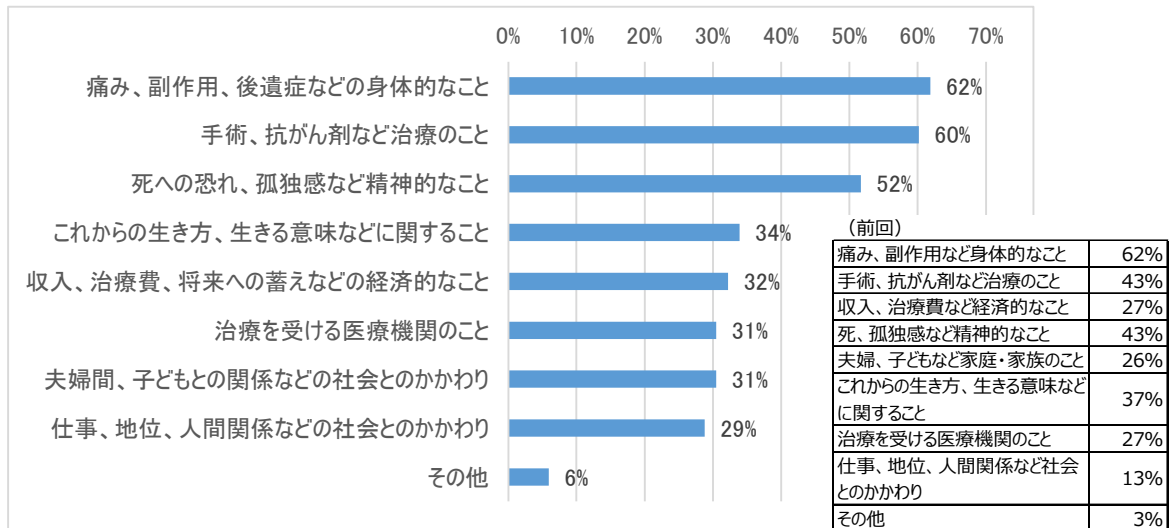
問 21 不快な症状や痛みが自宅(施設)においても緩和できるとしたら、どこで最期を迎えたいと思いますか。



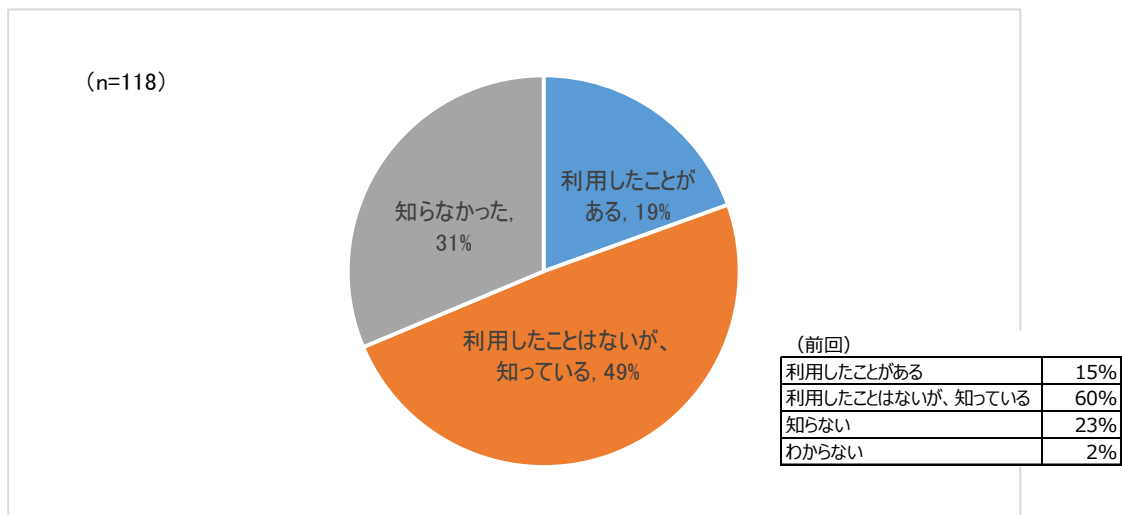
問 22 ご自宅で過ごすことを想定した場合、どのようなサービスの充実を望みますか。



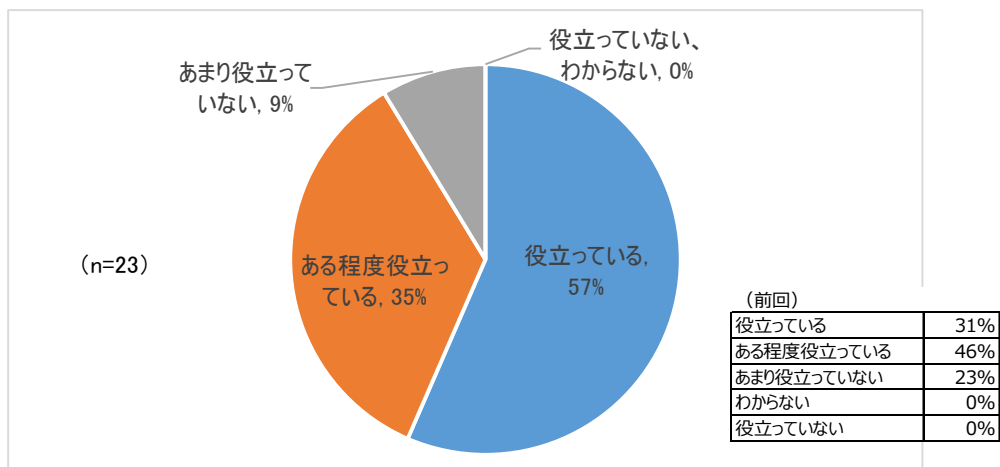
問 23 がんの診断や治療を通して、どのようなことについて悩みましたか。



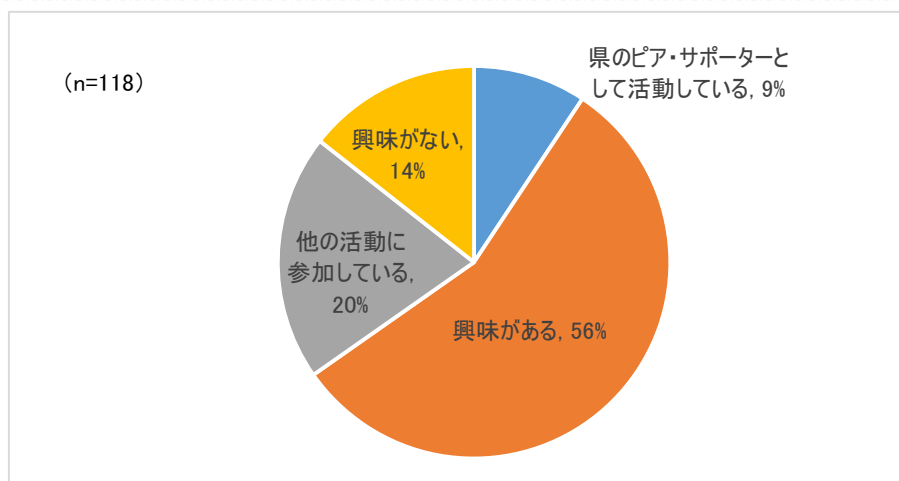
問 24-1 がん診療連携拠点病院等に設置されているがん相談支援センターを利用したことはありますか。



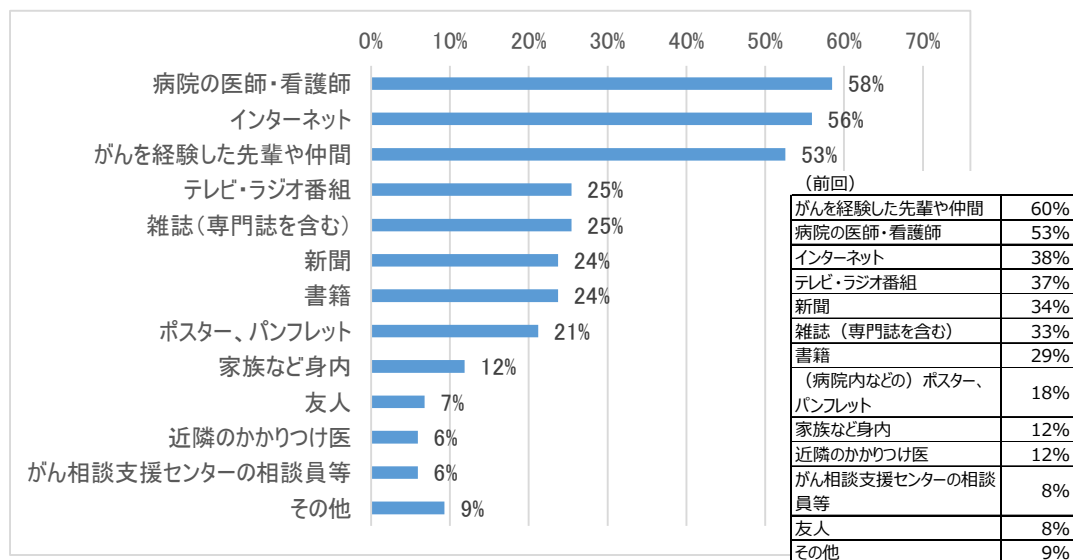
問 24-2 「がん相談支援センター」の取組が患者への相談支援・情報提供に役立っていると思いますか。（問 24-1 で「利用したことがある」と答えた方。）



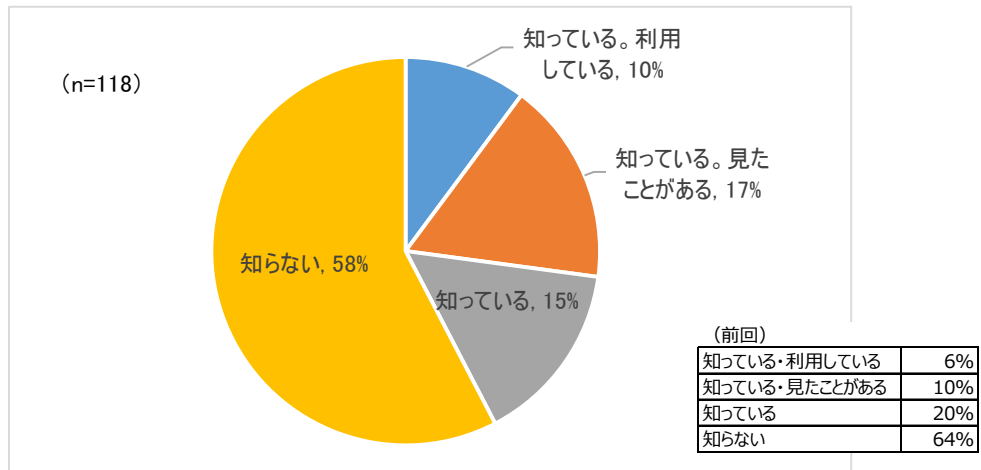
問 25 県では、がん患者やその家族を支援することを目的として、がん経験者によるピア・サポート活動を推進しています。あなたはピア・サポート活動をどのようにお考えですか。



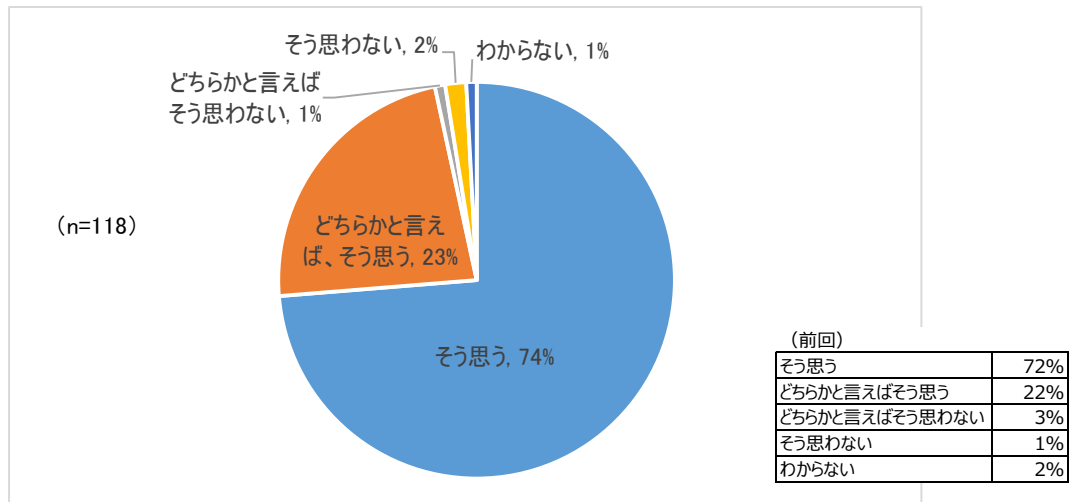
問 26 あなたは、どのようなところからがんに関する情報を得ていますか。



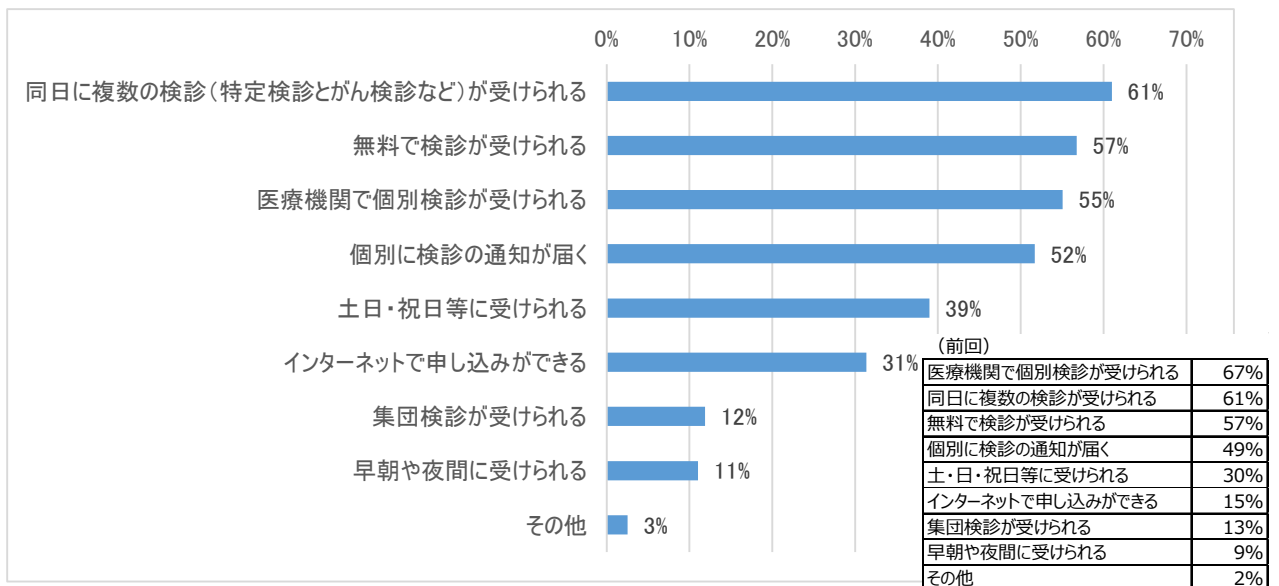
問27 あなたは、がん専用サイト 千葉県がん情報「ちばがんナビ」を知っていますか。



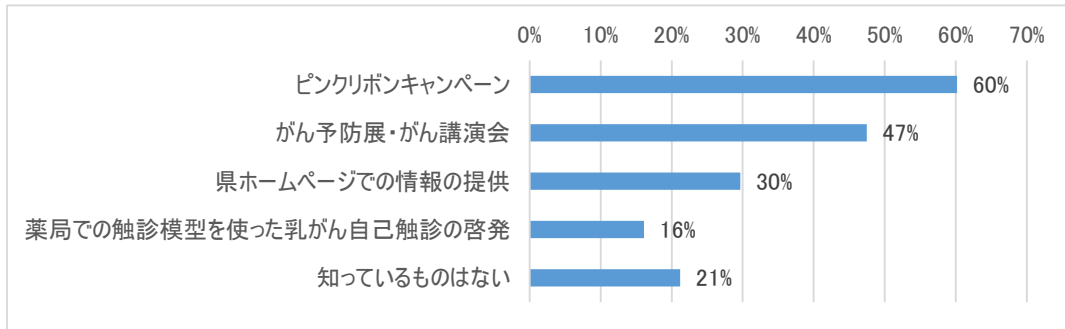
問28 がん検診は、がんの早期発見、早期治療につながる重要な検査だと思いますか。



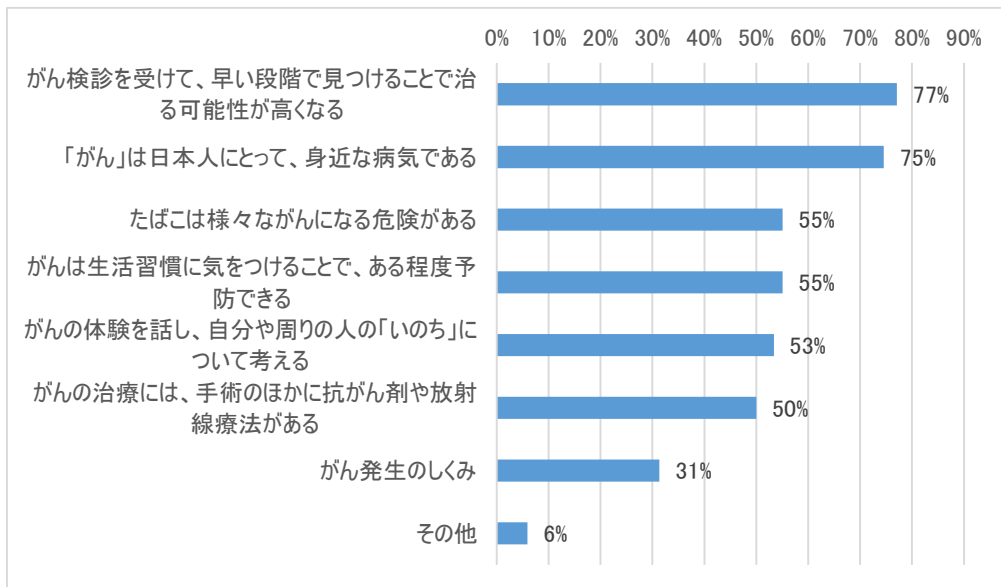
問29 がん検診を受診する際、どのようなサービスやシステムがあれば受けやすいですか。



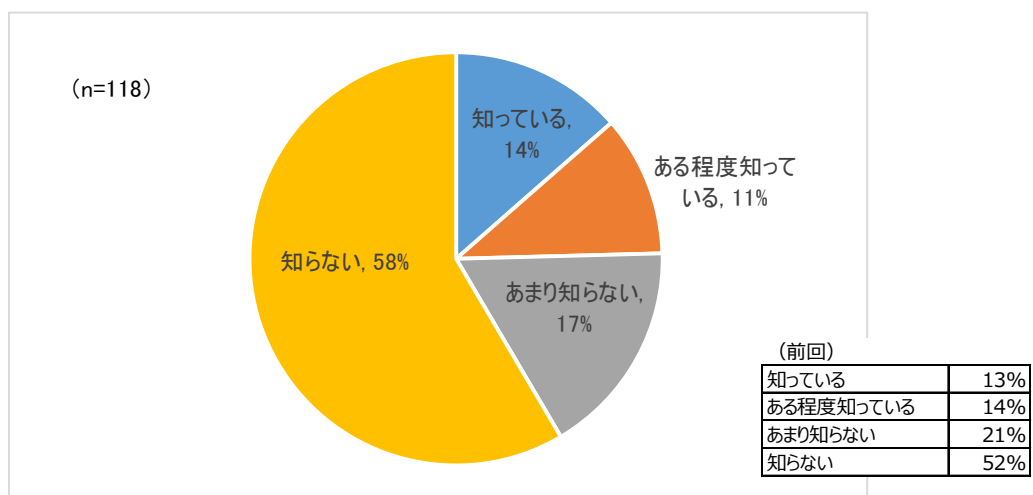
問 30 県で実施しているがん検診の受診率向上のための取組のうち、あなたが知っているものはどれですか。



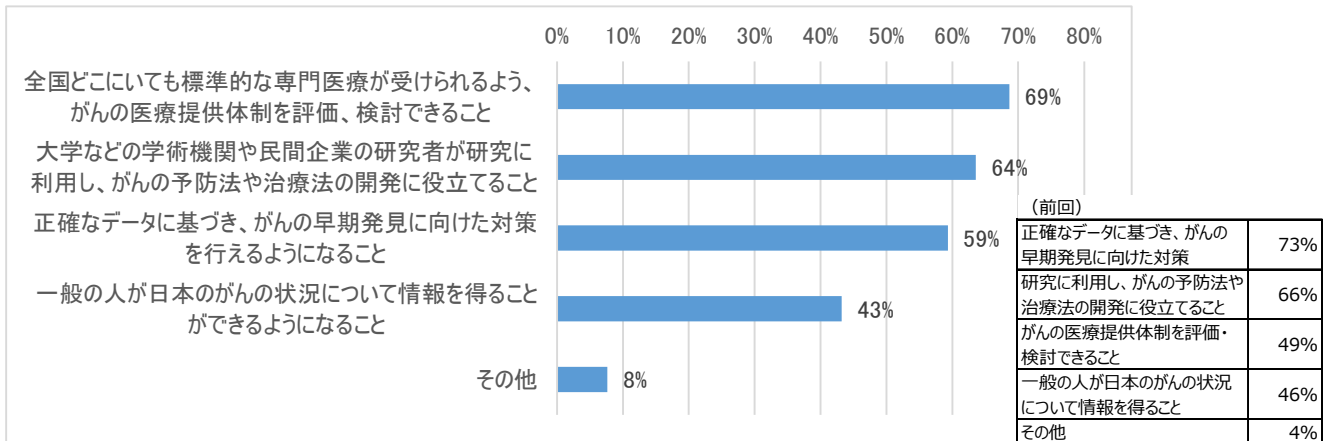
問 31 子どもの頃から自他の健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理するとともに、がんに対する正しい理解を深めるための「がん教育」をあなたが行うとしたら、子どもたちにどのようなことを伝えたいですか。



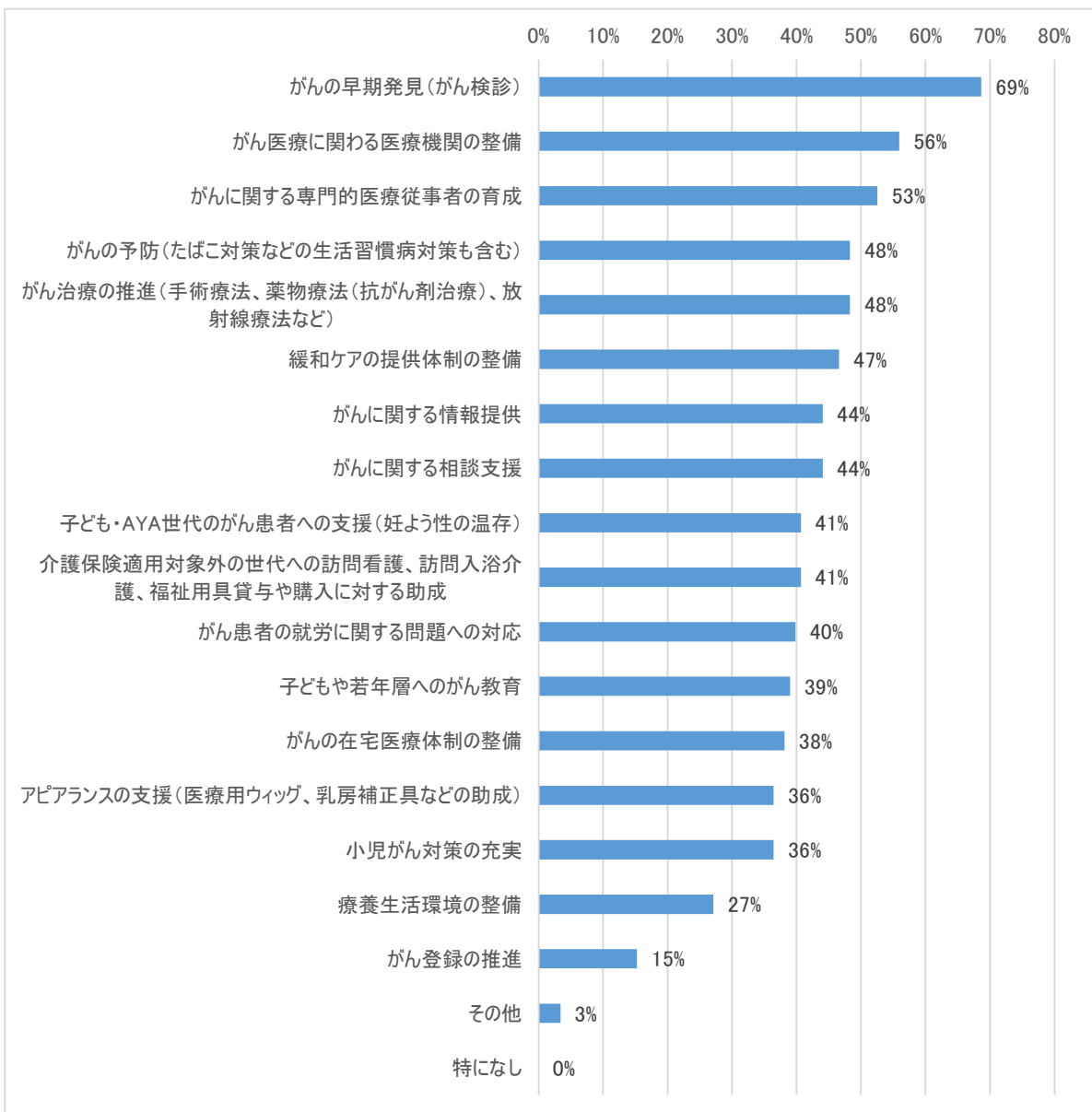
問 32-1 日本でがんと診断されたすべての人のデータを、国で1つにまとめて集計・分析・管理する「全国がん登録事業」が平成 28 年 1 月から始まったことを知っていますか。



問 32-2 全国がん登録事業によって、がんに関する正確な統計が整備されると、様々なメリットが期待できますが、あなたは何に期待しますか。



問 33 あなたは、がん対策について、県としてどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。



問 34 その他、県のがん対策についてのご意見

1	がん患者である息子は18歳になりました。先日、保険会社から通知が来て、こども型からの切り替えを行いました。一度がんになると入れる保険があまりないため、少しでもいいタイプに切り替えたいと思いましたが、経過観察している場合は切り替え前と同程度のものしかダメだと言われました。治療終了して10年以上経ち、現在は普通の人と全く変わらない暮らしをしています。病院で長期フォローアップしてもらっていてとてもありがたいのと同時に、保険契約の障害となるとは思っていませんでした。これも、がん患者は「完治」という言葉を使えないからかと思いました。一度がんを経験したら、一生がん患者としてしか生きていけないのでしょうか。小児がん経験者は大人になっても一生がん患者という肩書が消えないのでしょうか。例えば、治療終了して何年経過したら完治同等と認めるとか、特にこどもにとってはそういう指針があればいいと思います。生きていく希望につながると思います。県のがん対策には直接関係ないかもしれませんが、こういう意見はどこに言えばいいのかわからなかったので書かせていただきました。
2	県のがんセンターでは、新しい病棟もでき、期待いっぱいです。精神腫瘍科、漢方外来、専門看護師による相談など、特化した部分を強化して欲しい。
3	末期の卵巣がんでしたが、緩和ケアによって本人が楽に旅立つことができました。
4	何故がんが多くなっているかを、しがらみを超えて原因を明らかにしていけると良いと思います。そして治療をドクターに遠慮なく選べる雰囲気づくりやすすすめられた治療を断ってもそれを受け入れて、通院できるようになると精神的に楽になると思います。
5	私は視床下部に細胞腫ができ、オペ(手術)できません。乳がんは初期に見つかり、オペで取れるようになりなんてありがたいことかと思えます。 字を書くのはとても大変です。でもリハビリです。コロナでがん検診を受診なさらない方が多いですが、コロナで亡くなる方よりもがんで亡くなる方が多い事実を知ってください。
6	食道がんが初めての「がん」でしたが、その後の検診は大切です。 私も下咽頭がん・食道と胃の接合部のがんで4回ほど早期発見されました。
7	病気になってもみんながよりよく生きられる社会になると良いと思います。
8	がんにならない予防医療の部分を充実させられると良い。 正しい食事、生活習慣の情報提供や質のいい日用品や食を提供できる企業が増えると良いと思います。
9	細かいことでも何でも気軽に相談をして、その答えが出るようにして欲しい。
10	集団検診で早期のがんが見つかり、手術で助かりました。自分では進んでは行きませんが、通知が来ることで受診する人も多いと思います。 初めの肺がんから23年ぶりに集団検診で胃がんが見つかり、内視鏡で手術することが出来ました。検診は大事です。
11	県の対策について初めて知る事が多かった。当方県健康福祉部の障害者福祉推進課(生涯福祉課)の皆様には大いなるお世話になり、予算もいただき、既に40年の歴史を重ねた支援団体で指導員、役員を続けてまいりました。課長様以下大変熱心にご支援いただき、感謝しております。この度同じ健康福祉部内の健康づくり支援課の皆様にご接する機会が出来、幸甚です。「がん」とは、命とは何かを問う課題です。さらなるPRをお願いしたい。
12	行政や病院の中に相談できるセンターがありますが、一般的な相談を気軽にできる場所(サロンなど)をもっと作ってほしいと思う。
13	県の支援としては支援金を出すくらいなのでしょう。AYA世代として、治療をしながら働ける職場を増やしてほしいです。障がい者施設によるクッキーや雑貨などの販売があるように「がん患者のための仕事ができる施設」があってもいいと思います。がん患者のデータを集めて公表するだけでは支援にはつながりません。
14	医療提供者への報酬や手当の上乗せを希望。オンライン診療の県独自の予算の創設。医療者と患者会の交流の場の創設、双方が理解しあえる場を作り、時間の無駄を省き、相互理解を進める。

15	がんになっても永生きする人は多くなっていますので、がん治療と高齢者、障がい者対策の一元化が求められます。
16	各地（各県に）マギーズハウスのようなものがあるといい。（病院でも、自宅でもなく本人の居場所となるようなところ） このようなアンケートを実施して下さり、ありがとうございます。 一人でも関心のある方の目に触れてほしいものです。 私は退職してからがんが見つかったのですが、現役の方の場合は職場に理解が必要です。まして子育て中の方の場合は大変なようです。病気は患者を選びません。今、私はタオル・帽子づくりや、緩和ケア病棟の訪問等、自分のできることを実施しています。
17	治療をするのに限度額申請をしても毎月 44,000 円の治療費が一つの病院でかかってしまう。 がんになる前は働いていたが、働けず、いつまで支払えるのか不安である。70 歳以上の人が同じ治療をしても年間 144,000 円しかかからないのであまりにも不公平だと思う。 毎月 44,000 円かかるのとではあまりに違い過ぎる。長期治療が必要な大病は 70 以上と同じにして欲しい。病気に関しては老人も若い人も同じだと思う。家族を持った若い人の方がずっと大変なはず。全世代公平な社会保障でなければいけないと思う。
18	患者支援も大切だが、患者の家族を支援する体制を整備して欲しい。 病院の看護師や事務の知識がなさすぎる。「よりそう介護」よりも基本的なことをしっかりとって欲しい。 標準治療のできる病院を増やしてほしい。
19	早期発見、早期治療に勝るものなし！！
20	私はオストメイトです。内部障害のため地震・災害時に避難した時、オストメイト用の仮設トイレ等の対応などして頂きたい
21	私の知る限りでは、千葉県の対策は70%位の整備が出来ていると思います。今後も前向きに進めてほしい。
22	生活基盤を完成した年齢層の方ががん発病に比べ、小児慢性特定疾病の対象外の AYA 世代のがん患者の方は経済的にも人生におけるさまざまな面でも大変な思いをされていると感じます。少しでも負担が軽減されるように公的支援制度の検討をお願い致します。
23	県が行なっているがん対策についてよく知らないのでも言えない。まずは県がどういう立場でがんに関わっているのかを周知してほしい。
24	標準治療と言いながら各病院で治療内容に差が有りすぎる（公立より私立の方が検査内容や検診の頻度や薬の服用期間など） 例えば、過度な検査をする病院ではステージ 0 なのに PET を毎年 1 回する、年に 2 回 MRI をするなど知識を得れば必要が無いと思われる検査なのですが、知識が無い時は検査をして貰えない事がストレスになった。やり過ぎの病院に対しては指導が有っても良いと思う
25	稀な希少癌等の治療実績やそれによる予後等を公開して患者や家族に対して情報公開をして欲しい。特に未分化ガン等。
26	大腸癌や胃癌の内視鏡検査や肺癌の CT 検査などの充実、痛くない乳がん検査をすすめて欲しい。医師には、単純レントゲンや CT の読影の能力を向上させて頂きたい。
27	千葉県内のイオン全店の「イオンの幸せの黄色いレシートキャンペーン」にも参加してみてもいいと思う。検診の受診を推進し、受診率を向上させるきっかけとなるかもしれません。
28	早期発見、早期治療が一番だと思います。おかげで元気に仕事を頑張っています。